

平成31年度学校経営計画（十日町高校松之山分校）

平成31年 4月

県立十日町高等学校長 加藤 徹男

1 一人ひとりの生徒に応じたきめ細かな指導の実践

基礎学力の定着が課題の生徒、特別な支援が必要な生徒、上級学校への進学を志す生徒等、本校には多様な生徒が共に学んでいることから、一人ひとりの生徒が抱える課題について情報を共有し、より効果的な指導の在り方について、教職員が知恵を出し合い、協力して指導を行う。

○ 小・中学校時代の不登校等、様々な生育歴を持つ生徒への新しい自分作りへのサポートを行う。

2 生徒が安心して過ごせる教育環境の保持

すべての生徒に集団生活のルールを守らせ、当たり前のことができるように導く。併せて、他者の痛みを想像することのできるような感性を育むことを目指す。

そのために、教職員自らが自身をコントロールすることも必要であり、毅然とした態度で指導に当たらなければならない。ただし、そのような際にも、乱暴な言動を慎み、丁寧な指導を心がける。

また、周囲から孤立していたり、人間関係に悩んでいたりする生徒を決して見過ごすことなく、カウンセリングマインドをもって接する。

3 地域・保護者との連携、交流

学校の教育活動を充実させるには、地域・保護者との連携が不可欠である。学校の各種取組を目に見える形で発信することにより、地域・保護者の理解と協力を求める。

地域の人材活用、地元企業への訪問研修などをおして、将来の生き方・在り方をしっかりと考えさせるキャリア教育を実践する。

○ 体育祭を週休日に実施することで、地域から多くの方々の参加を促し、松高祭等における地域の方々への公開と交流のさらなる活性化を図る。

4 松高だからこそ可能な、徹底した個別学習指導

「日本一面倒見の良い」分校として、個々の生徒に寄り添い、徹底した個別学習指導を行うことで、大規模校ではできない、徹底した個別指導を実現する。これにより、大学、短大、専門学校など、上級学校への進学を実現する。